

12月12日（木）開催

国際シンポジウム「大規模自然災害におけるプロテクション・ギャップ」

近年、地震、津波、火山噴火などの大規模災害は、日本とインドネシアにとって共通の重大な課題となっています。これらの自然災害に対する備えとしての保険制度の整備や、その社会的認知の向上が不可欠です。現在、両国は災害への対策や保険普及のレベルにおいて異なる課題に直面しており、相互に学び合うことでより効果的な解決策を見出すことが期待されます。

本国際シンポジウムでは、Irwanda Wisnu Wardhana 博士（インドネシア国立研究革新庁局長、関西大学客員研究員）、諏澤吉彦教授（京都産業大学経営学部）、永松伸吾教授（関西大学社会安全学部）を招き、日本とインドネシア両国における災害対応と保険の現状、課題、そして将来的な展望について議論します。

具体的には、地震、津波、火山噴火に対する各国の対応策、保険商品の設計と普及状況、被災者支援の実践例などを共有し、共通の課題解決に向けた具体的な戦略を模索します。また、専門家同士のネットワーキングを通じ、今後の共同研究や政策提言の基盤を築くことを目指します。

本シンポジウムが、日本とインドネシアの防災・保険分野における知見の共有と協力を深化させ、より安全で持続可能な社会の実現に寄与することを期待しています。

【申込先】

関西大学内 国際検討会議準備委員会
事務局 大学院生八重島崇宏
E-mail: k664276@kansai-u.ac.jp

参加方法（対面・オンライン）、日本保険学会の会員であるか否かを明記願います。

本シンポジウムは、日本保険学会の国際会議開催等補助金の助成を受けています。

<日程詳細>

国際会議「大規模自然災害におけるプロテクション・ギャップ」

日 時：2024年12月12日（木）17:00～18:50

場 所：関西大学梅田キャンパス 701 教室

開催形式：対面とオンラインの併用（定員 50 名）

主 催：「大規模自然災害におけるプロテクション・ギャップ」国際検討会議準備委員会

次 第：

総合司会：徳常泰之 関西大学商学部教授

1. 開会の辞：

(1) 西澤希久男 関西大学政策創造学部長（予定）17:00～17:05（5分）

(2) Agus Eko Nugroho インドネシア国立研究革新庁所長 17:05～17:10（5分、オンライン）

2. 開催の趣旨：石田成則 関西大学政策創造学部教授 17:10～17:15（5分）

3. 講演：17:15～18:45（90分）

(1) 「インドネシアの事例報告」（仮） 17:15～17:35（20分）

Irwanda Wisnu Wardhana インドネシア国立研究革新庁局長

(2) 「日本の事例報告Ⅰ」（仮） 17:35～17:55（20分）

永松伸吾 関西大学社会安全学部教授

(3) 「日本の事例報告Ⅱ」（仮） 17:55～18:15（20分）

諏澤吉彦 京都産業大学経営学部教授

(4) 討論と質疑 18:15～18:45（30分）

4. 閉会の辞：石田成則 関西大学政策創造学部教授 18:45～18:50

<講演者のご紹介>

Irwanda Wisnu Wardhana 氏



現在、インドネシア共和国国家イノベーション調査研究庁（BRIN）で局長を務めている。一橋大学で修士課程修了後、テキサス大学で博士を取得された親日家である。関西大学に客員研究員として12月2日から14日まで在籍している。局長として、産業イノベーションの振興に尽力するほか、大規模自然災害に対する公的保険や民間のリスク・ファイナンスの研究・調査、そして政策立案に従事している。昨年度は、Asia-Pacific Risk and Insurance Association（アジア太平洋リスク保険学会：APRIA）の年次大会（関西大学開催）において、「Developing Disaster Risk Financing Schemes in Indonesia: Lessons Learned from the 2022 Cianjur Earthquake」をテーマに共同報告を行っている。

諏澤吉彦氏



米国 St. John's University において経営学修士（優等学位）および理学修士を取得後、一橋大学大学院商学研究科博士後期課程を修了し、博士（商学）を得た。Asia-Pacific Risk and Insurance Association (APRIA) の Board of Governor を務め、現在は日本保険学会理事、生活経済学会理事。近著として「健康経営推進に向けた損害保険事業の役割に関する考察」『損害保険研究』第85巻4号（2024年）、『基礎から学ぶ損害保険の理論と実務』（保険毎日新聞社、2023年）、” Risk Evaluation Factor of Health Promotion Medical Insurance: An Analysis Focusing on Cost of Telematics and Policyholder’s Coverage Selection,” *Asia-Pacific Journal of Risk and Insurance*, No. 15, Issue 2（2022年）ほか、直近の学会発表としては欧州老年医学会第20回年次大会（2024年9月バレンシアにおいて開催）における "Lifestyle Intervention to Promote Elderly Workers’ Mental Health and Productivity: An Analysis of Data from Public Corporate Health Insurance Claims and Wearable Devices"（共同報告）などがある。

永松伸吾氏



中央大学法学部政治学科卒業（法学士）、大阪大学大学院国際公共政策研究科博士前期課程終了 修士（国際公共政策）、大阪大学より博士（国際公共政策）を取得。大阪大学大学院国際公共政策研究科文部科学教官助手、Asian Disaster Preparedness Center (ADPC) 客員研究員、財団法人阪神・淡路大震災記念協会人と防災未来センター専任研究員、独立行政法人防災科学技術研究所特別研究員、財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構、人と防災未来センター研究副主幹を歴任。専門は経済学・公共政策、

防災・減災・危機管理政策、災害経済学。現在は関西大学社会安全学部で教授を務め、リスクと災害の経済学などの講義科目を担当している。災害社会科学全般に通じ、2019年4月より国立研究開発法人防災科学技術研究所社会防災研究領域災害過程研究部門研究部門長を併任し、社会科学の観点から国家的な防災研究プロジェクトを主導している。主著に『減災政策論入門』（2008年・弘文堂）『キャッシュ・フォー・ワーク』（2011年・岩波書店）がある。また、リスク・ファイナンスに関する著作として永松伸吾・柏木柚香・千葉洋平（2022）「巨大災害リスクと保険の役割-リスク・ファイナンスからレジリエンス・ファイナンスへ-」『保険学雑誌』Vol.656. がある。

以 上